

# 令和3年度 寺井小学校 グランドデザイン

**新学習指導要領** 豊かな人間性・自ら学び考える力などの「生きる力」  
**石川県がめざす教育の姿** 未来を拓く 心豊かな人づくり  
**能美市がめざす児童の姿**  
 進んで学ぶ人 感謝と思いやりの心をもつ人 たくましい心と体をもつ人

**保護者の願い**  
 ○元気に学校に通ってほしい  
 ○確かな学力をつけてほしい

**地域の願い**  
 ○元気に学校に通ってほしい  
 ○思いやりの心が育ってほしい

**学校教育目的**  
**粘り強く柔軟に考え、安心して心を開き、自ら動き出す寺井っ子の育成**

育成を目指す資質能力	<b>みんなが「幸せ」な学校</b>	教育目標
生きて働く知識及び技能		自分の考えを伝える子
未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力		よさを見つける子
学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等		

## 組織的な学校運営 ○安心・安全な学校（気づく） ○学校力の向上（関わる） ○目標達成に向けた協働（つながる）

- ・ヒヤリ・ハットの発信、よくない情報ほど早く共有し、いじめ・不登校等の未然防止に取り組む。
- ・効率的な会議の在り方を探り、授業研究の充実により、教職員のキャリアアップをめざす、
- ・校内研修推進リーダーを推進役として、年間計画に基づき教職員のICT活用指導力のスキルアップを進める。
- ・ロードマップを有効に活用し、短期PDCAサイクルを積み重ねる。

### 研究推進委員会

「寺井小授業スタイル」を基盤とした「深い学び」につながる授業改善

- ① ゴールの姿の明確にする
  - ・指導事項に基づいたゴールの姿の設定
  - ・ゴールの姿につながる授業設計・単元設計
- ② 見方・考え方を働かせた「深い学び」につながる授業過程を工夫する
  - ・思考したくなる課題設定
  - ・自己決定→問題発見→解決の思考過程の連続
  - ・思考を深める問いかけ・揺さぶり
- ③ 児童が学びを自覚できるようにする
  - ・振り返りの充実
  - ・学びの足跡・自分の成長・変容の自覚化
  - ・次の新たな課題発見

### 学習指導委員会

- 学力向上プランに基づいた取り組み**
- ・重点単元の設定と共通実践  
国語・算数において重点的に取り組む項目を明確にし、共通実践をする
  - ・基礎基本の定着  
帯タイムで Chromebook も活用し、基礎基本の学力をつける
  - ・活用力の向上  
単元末に活用問題を取り入れ、定着の検証と学び直しに取り組む
  - ・家庭学習の充実  
家庭学習がんばり週間後に検証テストを行い、内容の充実を図る

### 生徒指導委員会

- ・年間三回、自分達の成長を実感する「めざす学級」の取組で、自己肯定感の向上を図る。
- ・学期一回の「ハッピーレター」で自分のよさを再認識する。
- ・日常的な情報共有を行い、いじめ問題を早期発見し、早期対応する。

### 健康安全委員会

- ・主運動に入る前の予備運動や各種目・領域の段階的指導を行い、児童の体力向上とケガ防止を図る。
- ・感染症・熱中症対策、避難訓練で児童自らが判断して行動できる指導を行う。
- ・好き嫌いせずに給食を食べる児童が増える食育指導を工夫する。

### 《育友会事業》

- 生活指導委員会
- 教養委員会
- 会報委員会
- 学級委員会

- 温かい居場所
- 基本的な生活習慣

### コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

- 地域と学校が一体となって役割分担しながら、みんなが「幸せ」な学校づくりをめざす**
- 家庭・地域との積極的な情報共有を図り、子ども達の健やかな成長を育む
  - 基本的な生活習慣の確立と家庭学習の習慣化を図る
  - 学校評価を通して開かれた学校づくりに努める。

《各町内会の取り組み》子ども会 祭り 奉仕活動等

# 令和3年度 寺井小学校 重点目標達成に向けて

**未来に必要な力**  
 ・society5.0 学び続ける  
 ・学習指導要領  
 ・石川県がめざす教育の姿  
 ・能美市教育行政の基本方針

学校教育目的

**粘り強く柔軟に考え、安心して心を開き、自ら動き出す寺井っ子の育成**

子どもの実態  
 よさ 素直 前向き  
 課題 他人任せ 自信がない

教育目標（めざす児童像）

自分の考えを伝える子

よさを見つける子

**みんなが「幸せ」な学校**

何ができるようになるのか（資質・能力）  
 ○学校教育の基本

何が身に付いたか（評価）

- ① わかろうとして聴く力
- ② 課題解決に向けて、より良い方法を見出す力

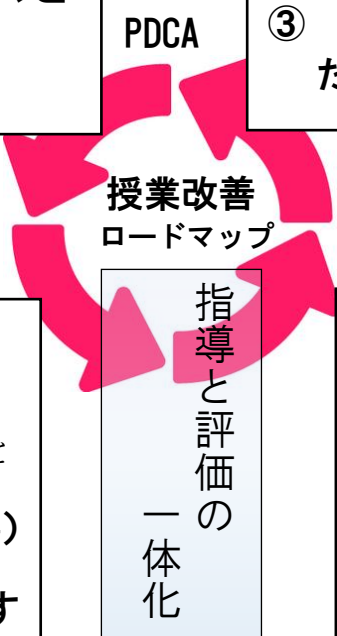
- ① 話している人に目線に向けて、反応を返しながらか聴いている。
- ② 「つなぎ言葉」を使って、話している。
- ③ 「自分の成長」「次に」「これから」「もっと」「まだ」を使って学習を振り返っている。

何を学ぶか（教育課程の編成）

どのように学ぶか（教育課程の実施）

- 教科横断的な視点をもつ
- ① 課題を自分事としてつかむ。
  - ② 友達とつなげて話す「すべ」を身につける。  
 「つなげます」「似ています」「理由は」「まとめると」「自分の言葉で」「だったら」
  - ③ 基礎学力（漢字・計算・教科言語・語彙・読書）を身につける。
  - ④ 教科で身につけた力を表現活動などで、活用する。
  - ⑤ 自分の力を高める家庭学習の習慣を身につける。

- ① 寺井小授業スタイルでの授業  
 「必然性のある」課→自→友深→練→ま→ふ
- ② 個別最適で協働的な学び  
 クロームブックの活用・家庭学習・自学・AIドリル・読書活動
- ③ 教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて学ぶ
- ④ 生徒指導の3機能が働いている授業を通して学ぶ  
自己決定・自己存在感・共感的人間関係



子どもの発達をどのように支援するか（新たな不登校0）

- 全職員で全児童を見守る体制構築（児童理解、QU活用）
- 教育相談の充実（SCの活用、SOS発信の機会創出）
- 特別支援教育の充実（支援員の活用、UDの授業）
- 子ども支援につながる保護者・専門機関との情報共有・協働
- 基本的生活習慣の確立と健康教育の充実
- キャリアパスポートの活用（何をめざし、何が身についたかを自覚）
- 人権教育、道徳教育の充実（希望と勇気・努力と強い意志 親切・思いやり よりよい学校生活・集団生活の充実 生命尊重）

実施するために何が必要か

- 目標達成に向けて気持ちのそろった教師集団
- 校内研究の充実（仲間と共に成長する教師）
- 高い危機管理の意識（コロナ対策・いじめ不登校未然防止）
- ギガ校内研修の計画的な実施
- 業務改善・働き方改革（ゆとりをもって子どもと接し、授業の振り返りや計画を立てる時間を確保）
- 子ども理解と教師との信頼関係を基盤とした学級づくり
- 学校の教育資源の有効活用（人・もの・時間・金）

コミュニティ・スクール 学校運営協議会（家庭・地域との連携）

- ◎地域と学校が一体となって役割分担しながら、子どもが通いたくなる学校 保護者・地域が子どもを通わせたいような学校づくりを目指す。
- 家庭・地域との積極的な情報共有を図り、子ども達の健やかな成長を育む。
- 基本的生活習慣の確立と家庭学習の習慣化を図る。
- 学校評価等を通して開かれた学校づくりに努める。